

家紋輪寶

〔寛永諸家系圖傳 百五十四〕鳥居

家の紋、丸の内に鳥居、

〔寛永諸家系圖傳 二百八十二〕宮崎

家紋、鳥居の上に鳩、

〔寛永諸家系圖傳 二百八十三〕雨宮

家紋、日の丸、

〔諸家系圖纂三十三 桓武平氏〕平氏大須賀君鳥之系圖并神鎮守家紋之事

昔有下總國葛飾府千葉郡一人國主園種千葉之花樹其花盛時必天女各降來而遊覽于園使天衣懸置于松枝其容貌輝於邊其國主欲留之嫁之故使天女之羽衣竊藏之然天女各見花了欲歸一女無天衣不得歸則相止爲夫妻多子孫是故改其所名千葉其松名天羽衣松亦謂天人腰懸松或號千年之松其天衣有月星之紋故相傳爲家紋亦以薄秋鹿雌雄并用云、

幕之紋用之但白地也薄鹿共可爲墨繪也、

〔東照宮御實紀附錄二〕三五郎野中重政に御盃を下され信國の御刀を引る盃に三日月を蒔繪にし

たれば向後これを吉例として三日月をもて紋とせしめらる、

〔萬世家譜一下〕打越治右衛門

關原戰場にて景勝之幕を取申候右幕之紋則家之紋に仕丸之内一ニ三星附申候、

〔寛永諸家系圖傳 二百四十二〕戸田

家紋、六星、

〔寛永諸家系圖傳 二十七〕大須賀

以雜形爲紋